

佳作

丸森小学校 4年 石井 千暖

表題 「カラスのいいぶん 人と生きることをえらんだ鳥を読んで」

書籍名 『カラスのいいぶん 人と生きることをえらんだ鳥』

みなさんは、カラスは好きですか。私は、最初「いやだな」とカラスを見ていましたが、この本を読んでカラスに対する気持ちが変わりました。変わった理由は、二つあります。

一つ目は、おそってくるのには理由があるからです。カラスは、たまにおそってくることがあります。でも、理由があります。たまごやひなを守るためです。「こわいな。」と思うのは、私たちではなくカラスなのです。

二つ目は、カラスへの気持ちが不公平だということ です。最後に「不公平じゃないかな。」と書いてありました。私も、そう思いました。なぜかというと、さかのぼって、二十年前の二〇〇一年にカラスはおよそ三万六千羽いました。けれど、カラスへの苦じょうが多くなりたいじされ、二〇一九年には一万四千羽までへってしまいまし

た。都会にカラスが少ししかいなくなると、ぜつ滅きぐ種のオオタカがすみつきました。ですが、オオタカはぜつ滅きぐ種だからとカラスのようにたいじせず、人はオオタカを守りました。

カラスとオオタカは同じ鳥です。けれど、カラスはたいじし、オオタカは守る。ぜつ滅きぐ種でも同じじゃないかな、たいじする以外にたいさくする方法があつたのではないかな、「不公平」じゃないかなと思いました。

私は、カラスはかわいそうでちよっとおもしろいなと思いました。みなさんもこの本を読んで、カラスへの気持ちを変えてほしいなと思います。

